

Uro-connect

～つなぐ、つなげる、医療の輪～



施設
リレー

第7回 前立腺がん治療における患者・家族支援

多様化する前立腺がん患者・家族のニーズを支え がんになっても安心して暮らしていける地域社会を目指す

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

統括診療部長

患者・家族総合支援センター センター長

患者・家族総合支援センター 副看護師長

患者・家族総合支援センター 医療ソーシャルワーカー

橋根 勝義先生

灘野 成人先生

清水 弥生氏

関木 裕美氏



PSA検診普及による早期診断や早期がんに対する根治治療の進歩により、前立腺がん患者の生命予後は延長し、多くが社会復帰を果たすようになりつつある。その一方で、がんと診断されたことによる心理的な負担や、治療に伴う休職・業務内容の見直しといった労働問題、医療費などの経済的な問題に直面する患者・家族も少なくない。また、地域社会においてがん患者が活躍するには、地域医療機関との連携や雇用者である企業のがん治療に対する理解も求められる。そこで今回、四国がんセンターの泌尿器科と患者・家族総合支援センターにおける患者・家族支援の取り組みについてうかがった。

■若年患者の増加や治療の進歩を背景に前立腺がん治療における患者・家族支援は多様化している

橋根 都道府県がん診療連携拠点病院である四国がん



橋根 勝義先生

センターでは、県内の地域がん診療連携拠点病院との医療連携により、松山市内のみならず県下全域の患者さんの治療を行っています。当センターの泌尿器科に通う患者さんの疾患は約50%を前立腺がんが占めており、患者さんのニーズに合わせて、ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除手術（ダヴィンチ手術）や強度変調放射線治療（IMRT）、小線源療法といった各種治療を行うことが可能です。

従来、前立腺がんは高齢者に多い疾患でしたが、近年のPSA検診の普及や食生活の欧米化などを背景に、比較的若年の患者さんも増加しており、年齢や職業、生活スタイルなどを考慮した治療選択がより一層重要

になってきていると感じます。また、治療選択以外にも、治療中や治療終了後の生活において、前立腺がん患者さんや家族が必要とする支援も多様化していることから、泌尿器科だけですべてを担うことは難しく、患者・家族総合支援センターとの協働は前立腺がん治療においても欠かせません。

灘野 四国がんセンターの患者・家族総合支援センター（愛称“暖だん”）は、愛媛県の第二次地域医療再生計画「患者・家族の視点に立ったがん対策の推進」の施策として、平成25年6月に開設されました。

当センターの特徴は、地域のすべてのがん患者・家族を対象とした“がんになっても安心して暮らしていける地域社会の実現”を目指した活動であり（表1）、がん相談支援部門、地域連携部門、患者・医療者支援部門の3部門で構成されます。また、その運営には、医師や看護師のほか、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、遺伝カウンセラー、診療情報管理士など、多くの専門的なスタッフが関与しており、がん治療に関わ



灘野 成人先生

る多面的な支援を展開しています。
清水 たとえば、当センターの施設内には、がんに関する書籍の閲覧・情報検索が可能な“学びのひろば”や、がん患者さんや家族、支援者が自由に交流できる“憩いのひろば”を設置し、がん患者さんの生活を支える場として活用が

広がっています。さらに、がん患者さん・家族を対象としたがん治療に関する各種セミナー（表2）や患者さん同士が体験を共有するがんサロンの開催、医療関係者を対象とした就労支援、セクシュアリティ支援、子どもの支援、外見ケアなどに関する研修会などを通じて、地域全体でがん患者さん・家族を支えるための取り組みも行ってきました。

関木 また、患者・家族総合支援センター内のがん相

談支援センターでは、がん患者さんやその家族、ならびに地域の医療関係者の窓口として電話・対面相談を行っています。当院はがん専門病院ということもあり、地域の患者さんからの期待も高く、受診や転院の問い合わせに加え、治験に関する専門的な相談なども多く寄せられます。さらに、当院で治療中の患者さんからの相談窓口にもなっており、実際、前立腺がん患者さんでは生検後の出血、治療後の疼痛、発熱などの相談を受け、緊急の場合には医師に連絡のうえ受診していただくよう調整するのも当センターの役割です。また、生活上の問題点などの訴えを心理的な側面を配慮しながらくみ取り、解決に向けて適切な部署につなぐ役割も担っています。

■治療中や治療終了後の生活のイメージを共有しながら患者さんの希望を把握し、先を見据えた支援を行う

橋根 前立腺がんに限ったことではありませんが、がんと診断されたばかりの患者さんは頭の中が病気のこと一杯になってしまい、その先の生活や治療について具体的に考えることが難しい状態にあります。そこで当科では初診時の医師の説明の後に、さらに看護師によるカウンセリングも実施しています。診察後に看護師から改めて治療中や治療終了後の生活について話を聞くことで、患者さんも具体的な生活のイメージをもつことができますし、私たちも患者さんの希望を的確に把握するという意味で、とても大切な機会となっています。

清水 カウンセリングの際には、患者さんの病気や治療に関する理解度を確認しながら、治療や生活に対する希望をじっくり聴取します。また、前立腺がんは高

表1 患者・家族総合支援センターの事業内容

- 1) 患者・家族、医療関係者が集える場の提供
- 2) がん関連情報の集約と発信
- 3) がんサロンの質の向上
- 4) 患者を家族にもつ子どもの支援
- 5) 就労支援
- 6) 患者の外見関連支援
- 7) 患者および家族（パートナー）の性（セクシュアリティ）に関する支援
- 8) 緩和ケア
- 9) がん登録

表2 患者・家族総合支援センターが行うがんセミナーの一例（2017年度）

セミナー名称	内容例
がんとお薬 知って安心！ お薬情報	<ul style="list-style-type: none"> ・お薬と上手な付き合い方 ジェネリック医薬品と薬の飲み方について ・眠れないとき、不安なときのお薬の使い方と気をつけること ・痛みの評価と痛み止め（医療用麻薬）の使い方 ・ステロイドを知ろう！ ～がん治療におけるステロイド薬の使い方～ ・お腹の症状への対処～便秘・下痢・吐き気のときのお薬の使い方～ ・知ってほしい！ がんと漢方薬のこと
がんと心 ストレスマネジメント	呼吸法・自律訓練法を取り入れた体と心をリラックスさせる方法を学ぶ
がんとお金 知って得する みんなの制度	<ul style="list-style-type: none"> ・高額療養費制度～医療費が高額になったときの手続きの方法とタイミングについて～ ・介護保険～療養生活で人の助けやベッド等の物品が必要になったとき～ ・傷病手当金～休職中に支給されるお金について～ ・医療費控除～一年間にたくさんの医療費や薬代を支払ったとき～



清水 弥生氏

齢の患者さんが多いこともあり、家族に対する支援の必要性が高いがん腫です。なかには患者さん本人と家族とで治療への希望が異なることがあり、家族を含む話し合いのなかで、治療意思決定を支援していくことも私たちの役割の1つになっています。また、実際に治療が始まると術後の合併症や薬の副作用などで思うように体が動かないこともありますから、先の生活を見据えた対策、たとえば術後の尿失禁の予防のための骨盤底筋トレーニングや退院支援など、できるだけ早い時期から支援を行うことが大切だと考えています。

橋根 また、治療そのものの説明以外にも高額療養費制度に関する説明や、術後の経過観察を行う病院の紹介など、患者・家族総合支援センターには幅広く対応してもらえるのも助かります。

橋根 また、治療そのものの説明以外にも高額療養費制度に関する説明や、術後の経過観察を行う病院の紹介など、患者・家族総合支援センターには幅広く対応してもらえるのも助かります。

関木 治療期間が長期にわたることの多い放射線治療や去勢抵抗性前立腺がん（CRPC）治療に関しては、医療費や生活費に関する相談も多くなっています。高額療養費制度をはじめとした社会保障に関する手続きは、高齢の患者さんでは理解が難しいこともありますし、制度の変更などもありますので、申請方法の指導など具体的な支援が大切だと感じます。

また、近年、入院期間が短縮される傾向にあり、治療中や治療終了後に患者さんが副作用による体調不良や生活上の悩みなどを抱えてしまうケースも散見されます。自宅で療養するということは、患者さんにとって不安の大きなことですので、常に心理的なサポートを行いながら、抱える問題の整理と適切な情報提供が欠かせないと考えています。

清水 とはいえ、日本人にとっては相談すること自体がかなり高いハードルとなっているという現実もあります。そこで、カウンセリングの際にあらかじめ相談窓口を案内したり、各種パンフレットを充実させたりといった相談の敷居を下げる取り組みも行っています。

■ 患者・家族総合支援センターを通じた地域連携パスにより泌尿器科以外においてもPSAモニタリングが可能に

橋根 一方で、県下全域から来院される患者さんにとって、治療後のフォローアップのために頻繁に通院しなければならないというのは負担が大きいものです。そこで、当科では、前立腺全摘除術、放射線治療

および小線源療法に関して地域連携パスを運用し、地域開業医でのフォローアップを行っていますが、ここでも患者・家族総合支援センターの協力が欠かせません。本連携パスの大きな特徴は、採血によるPSA測定をモニタリング指標とすることで、泌尿器科以外の開業医でも管理が可能とした点です。

清水 当センターではさまざまながん腫で連携パスを運用していますが、前立腺がんはPSAという管理しやすい指標があり、こうした柔軟性のある連携パスの運用が可能となりました。

橋根 とくに高齢の患者さんは合併疾患も多いですから、かかりつけ医で管理を継続することが望ましいですね。また、患者さんの安心感にもつながっているようです。

清水 もちろん、新しい施設と連携を始めるにあたっては、地域連携部門の看護師が連携先の施設に出向いて連携パスの計画や連携の流れ、厚生支局への届出を説明するなど、スムーズな連携に向けた取り組みも欠かせません。平成22年から始まったこの地域連携パスも、平成28年には年間約100件が稼働しており、これまでに500件近くの連携を実現しました。

橋根 また、年々増加する前立腺がんの患者数を考えると、地域全体で前立腺がんの管理を行うことは、当科での専門的な治療の質を高め、それをより多くの患者さんに提供していくためにも欠かせないことだと考えています。

■ がん治療と仕事の両立を目指した就労支援 —患者と企業の双方に対するアプローチ

灘野 また、患者・家族総合支援センターの活動の柱の1つが就労支援です。がん治療の進歩に伴い、仕事をしながらの治療は可能となりつつありますが、その一方で未だがん患者さんが仕事を継続することにはさまざまな困難があります。そこで当センターでは毎週水曜日を“就職・就労相談の日”とし、ハローワーク松山との連携による就職・就労相談、社会保険労務士による就労相談を実施しています（表3）。

橋根 高齢の患者さんの多い前立腺がんでは、これまで就労に関して問題となるケースは比較的少なかったのですが、近年の若年患者さんの増加に伴い、今後、対策が必要となる領域だと思えます。とくに若年患者さんの多くは早期がんで見つかることから、手術や放射線治療といった根治治療が可能で、社会復帰を目指



関木 裕美氏

した治療選択・支援が必要です。また、この地域では農業に従事する人も多く、そうした患者さんの生活も大切にしたい治療選択も求められると思います。

清水 これまでの状況をみていると、患者さんががんと診断された場合、多くの人は「仕事は無理だ」

と自己判断し、3～4割は仕事を辞めてしまいますが、一度離職してしまうと再就職は難しいのが現実です。そこで私たちは、まず“仕事を続けながらがん治療を継続する支援”を行っています。なかには休職という選択肢を知らない患者さんもいますので、はじめに職場の就業規則を確認し、仕事と治療の両立について、社会保険労務士のアドバイスを受けることから始めています。

関木 がん腫によっては治療後にストーマが必要になるなど、治療に伴う体の変化によって、それまでの仕事を続けることが難しいといった働きづらさに関する相談があります。その場合にはハローワークと協働しながら、患者さんの身体的な状況に応じた職探しを行っています。一方で、薬物療法の副作用で手足がしびれてしまうといった一見わかりづらい症状については、周囲の理解を得ることが難しいといった問題もあります。こうした点については、労働省公認の両立支援促進員である社会保険労務士のサポートのもと、労働条件の調整や診断書の取得といった方面から支援しています。

清水 その一方で、このような支援には企業側の協力も欠かせません。「部下から突然『がんになりました』と相談されても、どのように対応したらよいかわからない」、「実際、頭が真っ白になってどう返事をしているかわからなかった」という上司の声を受けて、がんの患者さんについて理解を広めることを目的とした企

業向けのセミナーも開催しています。最近では、社員を大切にす風土のある企業が多くなりつつありますが、セミナーを実施したある企業の社長さんの「今は若い人が減りつつあるなか、2人に1人ががんになる時代で、その人たちが仕事を辞めてしまったら仕事を人がいなくなってしまう。だから今いる社員をいかに大切に、仕事を継続してもらおうかということ」を第一に考えている」という言葉が印象的でした。今後もこうした企業が増えることを期待しています。また、がん治療の進歩によって、今ではどの病院であっても標準的な治療が行えるようになっていきますので、今後は治療中・治療終了後の生活支援がより重要になっていくと思います。そのなかで私たちは新たなニーズを掘り起こし、問題提起していきたいと考えています。

■“がん難民をつくらない”患者・家族支援を 目指した今後の取り組み

灘野 このように、当センターではさまざまな活動のなかで、地域医療機関や地域企業などの社会資源との結びつきを強めながら、よりよい患者・家族支援に取り組んできましたが、今後、取り組むべき課題も残されています。たとえば、就労支援に関しては、松山市以外の地域においてもがん患者を受け入れる土壌をつくっていかなくてはなりません。

清水 前立腺がんで用いられている地域連携パスについても、現在のところ対象はすべて早期がんの根治治療です。より地域で密着したケアが必要となる進行がんについても、今後、地域連携パスを検討していく予定です。

灘野 私たち患者・家族総合支援センターでは、がん治療の現場において、各診療科と協働しながら、今後も“がん難民をつくらない”患者・家族支援を目指し、さまざまな患者ニーズに応える施策に挑戦していきたいと思っています。

表3 患者・家族総合支援センターが行う就労相談

種類	主な相談内容
社会保険労務士による就労相談	<ul style="list-style-type: none"> ・治療のための休暇や休職はどうしたらいいの？ ・治療を受けながら無理せず働きたいが、短時間勤務はできますか？ ・治療や休職をするのに利用できる保険・手当金などはありますか？
ハローワーク松山との連携による就職・就労相談	<ul style="list-style-type: none"> ・治療中でも就職できますか？ ・履歴書に病名を書いたほうがいいのか？ ・面接で病気のことをどこまで話したらいいの？